

平成 13 年 4 月 13 日

## 青空に 60 匹の「あいのぼり」が泳ぐ

### 駒込小 6 年生手作りの藍染めこいのぼりが駒込駅頭に飾られました

本日 13 日、J R 駒込駅頭に、地元の駒込小学校（内田 武之 校長）の 6 年生たちが作った 60 匹の藍染めのこいのぼりが飾られた。初夏を思わせる青空の下、ひとつひとつ手作りの 60 匹の『あいのぼり』が一斉に泳ぎ出し、駅を訪れる人々も楽しげに見あげていた。

この藍染めのこいのぼりは、先月 12 日に同校 5 年生（現 6 年生）の「総合的な学習の時間」に、駒込駅前で工房を営む染織家・小林次郎さんをゲストティーチャーに招き、白いタオルにこいのぼりの模様を藍で染め出し、その後自分たちの手でひと針ひと針縫って仕立て上げたもの。

駒込小学校では、「自然環境・地域文化を活用した教育活動」をテーマに、特色ある学校作りを推進しており、昨年度の 5 年生たちも「総合的な学習の時間」で「藍をさぐる」をテーマに、小林さんの協力を得て、藍の栽培から染めまでの自然体験学習に取り組んだ。その中で制作された藍染めのこいのぼりは、小林さんにより『あいのぼり』とネーミングされ、先月 23 日の同校卒業式には卒業生の門出を送る校門に飾られた。

また、小林さんを通じてこの話を聞いた J R 駒込駅（福地芳行駅長）では、地域の活性化、街おこしにつながればと、この『あいのぼり』を駒込駅に飾ることを申し出、今回の企画が実現した。『あいのぼり』は 5 月 5 日の「子どもの日」まで、駒込駅頭に飾られる。

「ツツジの駅」として知られる駒込駅は、これから 5 月にかけて、ホームの両側に植えられたツツジが花盛りを迎える。このツツジは、かつてこの地域が染井と呼ばれ、ツツジの一大産地・花名所として賑わった名残をとどめようと明治 43 年の駅開業を記念して近所の植木屋によって植えられ、以後駒込駅駅員たちの丹精により今も毎年鮮やかに花を咲かせつづけ、初夏の風物詩として人々の目を楽しませている。今年は、このツツジの赤色に藍染めの青色が加わり、駒込駅はまさに鮮やかな初夏の彩りに染めあげられることになった。

本日午後、自分たちが作った『あいのぼり』を見ようと、6 年生全員が駒込駅を訪れた。

J R の駅玄関口から駅前の通路を横切る頭上にロープが張られ、ずらりと吊るされた『あいのぼり』の中から、「あっ、これ私が作ったのだ」「僕のはこっちだ」と、子どもたちはそれぞれ自分の作品を探し出し、嬉しそうに見あげていた。自分たちの手で染めあげ、丹念に縫って仕立てた『あいのぼり』の晴れ姿に、「作ったかいがあった」「とても嬉しい」「ダンスしているみたい」と満足気な表情だった。

福地駅長も「地域あつての駅だと思います。とっても素晴らしい眺めです。」と、子どもたちにまじって『あいのぼり』を見あげ、また今回の企画のコーディネーター役である小林さんも「たくさんの『あいのぼり』がずらりと並べられたの見てとても幸せです。藍は自然の色、自然が人間にくれるものはこんなにも素晴らしいものだと、あらためて感じました」と語っていた。

**詳細：工房布礼愛（ふれあい）**

平成 13 年 3 月 12 日

## 駒込小 5 年生、藍染めの「こいのぼり」作りに挑戦

### ゲストティーチャーとして地域の工房が協力

本日 12 日（月）、区立駒込小学校（内田 武之 校長）では、5 年生の「総合的な学習の時間」で、駒込駅前 で工房を営む染織家・小林次郎氏をゲストティーチャーに招き、藍染めの「こいのぼり」作りに挑戦した。

駒込小学校では、平成 10 年度より、「自然環境・地域文化を活用した教育活動」をテーマに、特色ある学校作りを推進している。その実践のひとつとして、地元の工房（「工房 布礼愛（ふれあい）」）の協力を得て、藍染めを通しての自然体験学習を進めている。

駒込小学校と藍染めとの出会いのきっかけは、現在同校 6 年生の松戸萌恵（もえ）ちゃんが 2 年生の時に遡る。駒込駅近くにある小林さんの工房の前を通るたび、青色が大好きだった萌恵ちゃんは「楽しそうだな、やってみたいな」と思い、そして自分から工房に通いだした。毎週日曜日に工房に通い、藍染めの楽しさにすっかり染まった萌恵ちゃんが 5 年生になった時、担任の先生が彼女を通じて藍染めを知った。

まず始めに、5 年生社会科の「伝統的な工芸」の学習で地域の職人さんたち何人かを訪ねる校外学習を行ったとき、ひとつのグループが小林さんの工房を訪問した。小林さんは話しじゃなく自分でやってみたらと、訪れた子どもたちに染めと織を体験させた。これがきっかけで、次には学年全員が工房を訪れ、藍染めを体験。そして、そのつながりが今年度にも引き継がれ、6 年生たちは家庭科のエプロン作りや卒業に向けてのプレゼント作りを藍染めで行い、また今年度の 5 年生たちも「総合的な学習の時間」で「藍をさぐる」をテーマに、藍の栽培から染めまでの体験学習に取り組んでいる。6 年生が種まきをして育てた藍の苗を昨年 7 月に 5 年生がひきつぎ、夏休み中も交代で水やりをして育ててきた。そして、9 月には自分達で育てた藍の葉っぱで生葉染めに挑戦、また「校内に 3 つの 藍がめも建てられた。この藍の草と藍がめは、これから 5 年生が中心となって管理し、次の 5 年生へ、また次の 5 年生へと受け継いでいく。この藍がめを毎日かき回す役を担っている 5 年生の男子児童のひとり」は、「藍をかき回していると、なんだか心が落ち着いてくる」と小林さんに語ったそうだ。自然の色の力は、布だけでなく子どもたちの心も染めていく。

そして今日のこいのぼり作り。

真っ白なタオルから、目やうろこの模様を作る所を輪ゴムやガムテープで絞っていく。尾びれは蛇腹にたたんで板で挟み、万力で固定する。それを藍がめ中に漬ける。30 秒漬けては取り出し、絞って空気に触れさせる、これを 3 回繰り返す。「いち、にい、さん・・・」30 を数える子どもたちの声が期待で膨らんでいく。「藍の中に漬けている時はあまり動かしちゃだめ」「空気に触れるたびに藍色が鮮やかなるんだよ」…もう何回か藍染めを体験している子どもたちがコツを教えてくれた。次は水に晒す。冷たい水で洗われるたびに、鮮やかな藍色が出てくる。子どもたちの手も藍に染まって真っ青になっているが、子どもたちは笑顔そのもので、染めあがったこいのぼりを広げて見せ合っていた。どれも少しずつ色や模様が違うところが手作りならでは。小林さんも、「子どもたちの生き生きした表情がうれしい。頭だけで考える教育じゃなくて、指先でもものを見ることを伝えていきたい」と語っていた。

この日作られたこいのぼりは、今月 23 日の卒業式に 6 年生を送る校門に飾られる。また、4 月 20 日から 5 月 5 日の子どもの日にかけては、教師たちが茜に染めるこいのぼりと合わせ、駒込駅頭を飾る予定である。ツツジの駅で知られる駒込駅、ツツジの赤に小林さんネーミングによる「藍のぼり（こいのぼり）」の青が初夏の駒込駅を彩ることになる。

学校と藍染めとの出会いを作った萌恵ちゃんは、「自分が好きなことをみんなも楽しんでくれるようになって嬉しい」と語り、そして将来の夢はとの質問には「世界中に藍染めを広めたい」と答えた。

詳細：駒込小学校 教頭